

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名	ダーク・ヘリテージ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ダーク・ヘリテージ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ヘリテージ

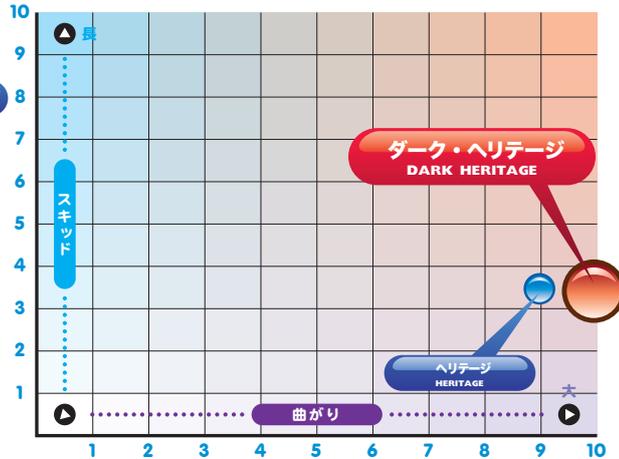
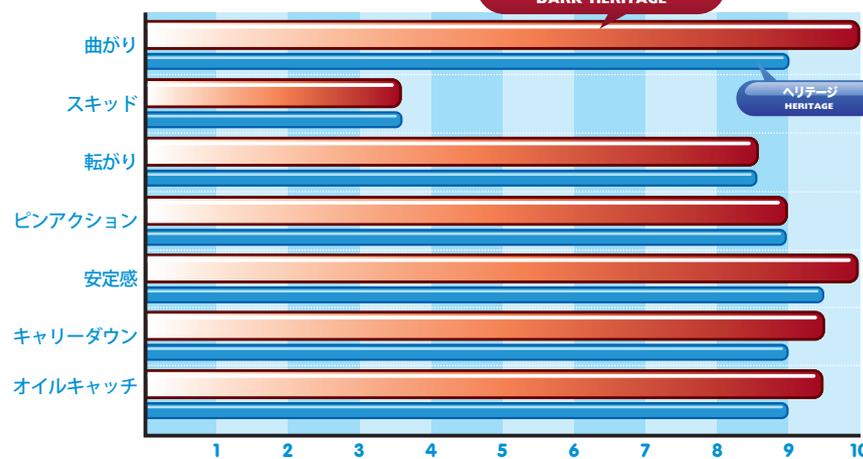
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

PRO-amブランドの拘りは、コアテクノロジーもカバーストックも日本のコンディション事情を反映させられるところにあり、特にカバーストックに強弱の変化を加えながら日本のコンディションに合わせてブレンドし、ラインナップを作成できる強みがPRO-amにはあります。前回のHERITAGEは光沢のある表面加工であっても十分オイル上でブレーキを感じられるよう重点的にオイルに対しての“すべり感”をなくして幅をとれるボールに仕上げるのがコンセプトでしたが、今回のDARK HERITAGEはHERITAGEの84x0 FUSION Pearl Reactiveから84x1 Atom Pearl Reactiveにカバーを変更し、初代HERITAGEと同じキャッチ感を保ちながら走り感をだすことと、初代HERITAGEを上回るバックエンドリアクションを実現させることにあります。

DARK HERITAGEを作成するにあたり最大の難所はオイルに強いスペックでありながらバックエンドの動きを初代HERITAGEより強めることでした。“走らせキャッチさせる”という相反する形を実現させるために、添加物を変えながら納得できる仕上がりにまでテストを繰り返しました。比較投球では手前のオイルの感じ方は一緒なのですが、中間から奥の動きが重点的に補強され、全体的な曲がり幅の中にメリハリ感を強化させたことで、しっかりと曲がるボールとしての印象が強くなりました。

幅をとっても戻しやすく、奥の緩みもないので、奥でしっかり戻したいボールを求める方は気持ちよくDARK HERITAGEを使っていただけるでしょう。

特記事項

PRO-amのカバーはまた進化し、今までイメージできなかったリアクションを出せるまで仕上がってきています。初代HERITAGEの進化の形、それがDARK HERITAGEです。